

調査結果の概要（海域）

■ 今年度の成果

- ヒアリング及び文献調査を通じて、調査対象の国立公園についての情報を収集した。

【ヒアリングの実施】

- 専門家及び現地関係者へのヒアリング（進行中；足摺宇和海が終了）

【データの収集】

- 基礎データの収集： 地形，植生，土地利用，サンゴ礁分布，保護区域
- 人口流動（訪問者数）データの選定・購入： ダイビング等利用客数の把握
- 過去からの変化解析： データの入手に着手

■ 今年度の調査を通じて明らかとなった知見等

- 足摺宇和海国立公園では、温帯種で形成される藻場の衰退が顕著であるとともに、サンゴの分布北上が確認されている。また、サンゴの白化やオニヒトデ等による食害も問題である。そのため、藻場・サンゴの将来的な分布予測だけでなく、保全活動の継続が不可欠である。さらに、サンゴの現在の分布域や今後分布が想定される地域と養殖場が近接していることが多く、養殖業と観光業の持続的な利用に向けた調整が課題である。
- 奄美群島国立公園では、サンゴが重要な観光資源の一つであるが、高水温等の影響を受け各島では甚大な白化被害を経験している。そのため、気候変動に対する島嶼毎の白化被害の予測や避難地となり得る海域の選定及びコネクティビティの解明が課題である。

調査結果の概要（陸域）

■ 今年度の成果

- ヒアリング及び文献調査を通じて、調査対象の国立公園についての情報を収集した。

【ヒアリングの実施】

- 専門家及び現地関係者へのヒアリング（進行中，気候モデル，分布モデルが終了）

【データの収集】

- 基礎データの収集： 地形，植生，土地利用・被覆，現在気象，積雪観測
- 人口流動（訪問者数）データの選定・購入： 観光客数の動向把握
- 過去からの変化解析： 過去航空写真の入手完了・処理中

■ 今年度の調査を通じて明らかとなった知見等

- 温暖化に伴う高山植生の生息適地の減少といった変化に対して，シカ，イノシシなどの獣害が急速に進行しており，現状把握と対策が喫緊の課題である。
- 火打山ではライチョウの餌となる広葉草本が減少してイネ科草本が増えており，植生変化を通じたライチョウの分布や個体数の変化も考慮する必要がある。